



2019年9月25日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディ コミュニケーション センター

アウディ、自動運転に対するユーザータイプとイメージの調査結果を公開

- 「&Audi」イニシアチブを通じて自動運転に関するインタビューを21,000人に実施
- 導き出された5つのユーザータイプは、自動運転に対する考え方がライフスタイルとどのように関連しているのかを示す
- 中国人、若者、高所得者は、自動運転に対して前向きな考え方をもち、積極的に知識を吸収する傾向にあることが判明

2019年9月25日、インゴルシュタット：アウディは、自動運転に対するユーザータイプロジー（ユーザー類型学）を作成しました。これは、自動運転に懐疑的なドライバーから、ハイテクに精通した乗員に至る幅広い人々を対象としたオンライン調査、「The Pulse of Autonomous Driving」（自動運転の脈動）によって判明しました。アウディは、「&Audi」と呼ばれるイニシアチブにおいて、市場調査機関のイプソス（Ipsos）と協力して、3大陸9か国¹の21,000人にインタビューを実施しました。その結果、自動運転に最も高い期待を寄せているのは、若く、高収入で教育水準の高い「ステータス志向のトレンドセッター」と「ハイテク技術に精通した乗員」タイプであることが示されました。その一方で、収入と教育のレベルが高くなく、比較的年齢層の高い「懐疑的なドライバー」タイプは、自動運転に対して消極的な考え方を持っています。「安全志向で消極的なドライバー」タイプは、テクノロジーが十分に実証された場合にのみ、自動運転を利用したいと考える傾向にあります。最大のユーザーグループは、「オープンマインドな副操縦士」と呼ばれるタイプです。このタイプの人は、いつでも自分でクルマを制御できるという条件付きで、自動運転を受け入れます。

オックスフォード大学の哲学および情報倫理学の教授兼デジタル倫理研究所のディレクターであり、「&Audi」イニシアチブの科学ネットワーク会員であるDr. ルチアーノ フロリディは、次のように述べています。「この研究は、自動運転という社会現象に関する知識を深める以上の価値を持っています。これは、政策および法律制定の決定にとって必要なステップです。同時に、幅広い情報に基づいた、より良い世界を積極的に構築することを目的とした、研究開発および事業戦略にとっても重要な意味を持っています」2015年以来、アウディは、自動運転が社会にどのように受け入れられるのかについて調査を行ってきました。「&Audi」イニシアチブにおけるこの研究では、理にかなった議論、感情、価値観、ライフスタイルによって、自動運転に対する考え方がどのように形成されるのかを調査しています。その結果、「自動運転に対するイメージ」、「ヒューマンレディネスインデックス（HRI）」（新技術の受け入れ準備指数）、そして「ユーザータイプロジー」から構成される3つの重要な指標が導き出されました。

人々は自動運転に対し高い関心を示しつつも懸念を表明

「自動運転に対するイメージ」は、人によって千差万別です。その一方で、自動運転に対しては、高い関心（82%）と好奇心（62%）が示されています。新しいテクノロジーに関して、回答者は個人および社会に貢献できる可能性を認識しています。それらは、より身近なモビリティの実現（76%）、利便性の向上（72%）、安全性の向上（59%）といった数値に表れています。回答者の半数以上が、自動運転を実際に試してみたいと考えています。その一方で、明確な懸念も存在しています。それらは、車両のコントロールの喪失（70%）、避けられないリスク（66%）などです。回答者の41%がテクノロジーに懐疑的で、約3分の1（38%）が不安を表明しています。最も多くの人々が自動運転に恩恵を感じる状況は、高速道路の渋滞時および自動駐車機能です。自動運転の知識レベルは、まだ低いようです。自動運転に

関して説明できると回答した人は、わずか8%でした。

中国人、若者、高所得者は自動運転に積極的

「ヒューマンレディネスインデックス (HRI)」は、社会人口統計学的に見た自動運転に対する考え方の洞察を提供します。その結果、回答者が若く、教育と収入のレベルが高いほど、自動運転に対する態度が前向きであることが判明しました。調査した国の間でも、違いが明確になっています。中国人 (HRI +5.1) は自動運転を積極的に受け入れる傾向にあり、韓国人 (HRI +1.2) もテクノロジーに対する肯定的な見方で平均を上回っています。ヨーロッパでは、スペイン人とイタリア人 (共に HRI +0.7) がこの指標で高い数値を示しています。ドイツ人とフランス人 (共に HRI -0.7) は消極的な傾向で、アメリカ人、日本人、イギリス人 (すべて HRI -0.9) も同様です。HRI は、自動運転車を利用するための知識、関心、感情、準備といった項目を組み合わせ、[-10] ~ [+10] の数値指標を生成します。

自動運転に対する考え方はライフスタイルに関連

人々の生活の中における自動運転に対する考え方を調査した結果、「ユーザータイプロジー」には大きな違いが存在することが示されました。この分析の結果、5種類のユーザータイプが導き出されました。「懐疑的なドライバー」タイプは、現状を維持することを好み、テクノロジーが完全に確立された場合にのみ、自動運転車を利用します。「安全志向で消極的なドライバー」タイプも、自動運転に対しては、かなり消極的な考え方を持っています。彼らは、自動運転車は何年もテストを繰り返してから、実際の路上で許可されるべきであると考えています。「オープンマインドな副操縦士」タイプは、テクノロジーの利点を理解しながらも、ビジネス、科学、政治の分野で自動車を安全に走らせるための対策を望んでいます。「ステータス志向のトレンドセッター」タイプは、進歩的なライフスタイルを示すことができるため、自動運転に積極的です。「ハイテク技術に精通した乗員」タイプは、テクノロジーを信頼し、それが全面的に導入されることを望んでいます。

アウディの自動運転責任者であるトーマス ミュラーは、次のようにコメントしています。「自動運転および自律運転は、モビリティを大幅に向上させる可能性があります。その道筋においては、テクノロジーの開発と平行して、人々に納得してもらうことが決定的に重要です。今回の研究によって、自動運転に関する人々の立場の違いや、社会において新しいテクノロジーに対する適切な期待感をどのように確立できるかについて、明確に差別化された洞察を得ることができました」

「The Pulse of Autonomous Driving」(自動運転のパルス) と呼ばれる研究の詳細については、ウェブサイト (www.audi.com/pulse-of-autonomous-driving) を参照してください。

¹ 中国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、韓国、スペイン、英国、米国

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。